

一般環境中(水質)の内分泌かく乱化学物質等調査結果

環境局環境保全部環境保全課

電話 245-5141 内線 2728

1 目的

内分泌かく乱化学物質の人体等への影響について関心が集まったことから、環境省は環境リスクを適切に評価・管理していくことを目標としている。本市でも国の動向を踏まえ、市内におけるその存在状況を把握することを目的に調査を実施した。

2 調査日

平成 25 年 12 月 12 日

3 調査方法

外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル（環境省）に従い調査を実施した。

ただし、*o,p'*-DDT については、モニタリング調査マニュアル（環境省）に基づき実施した。

4 調査結果

(1) 表 1 のとおり

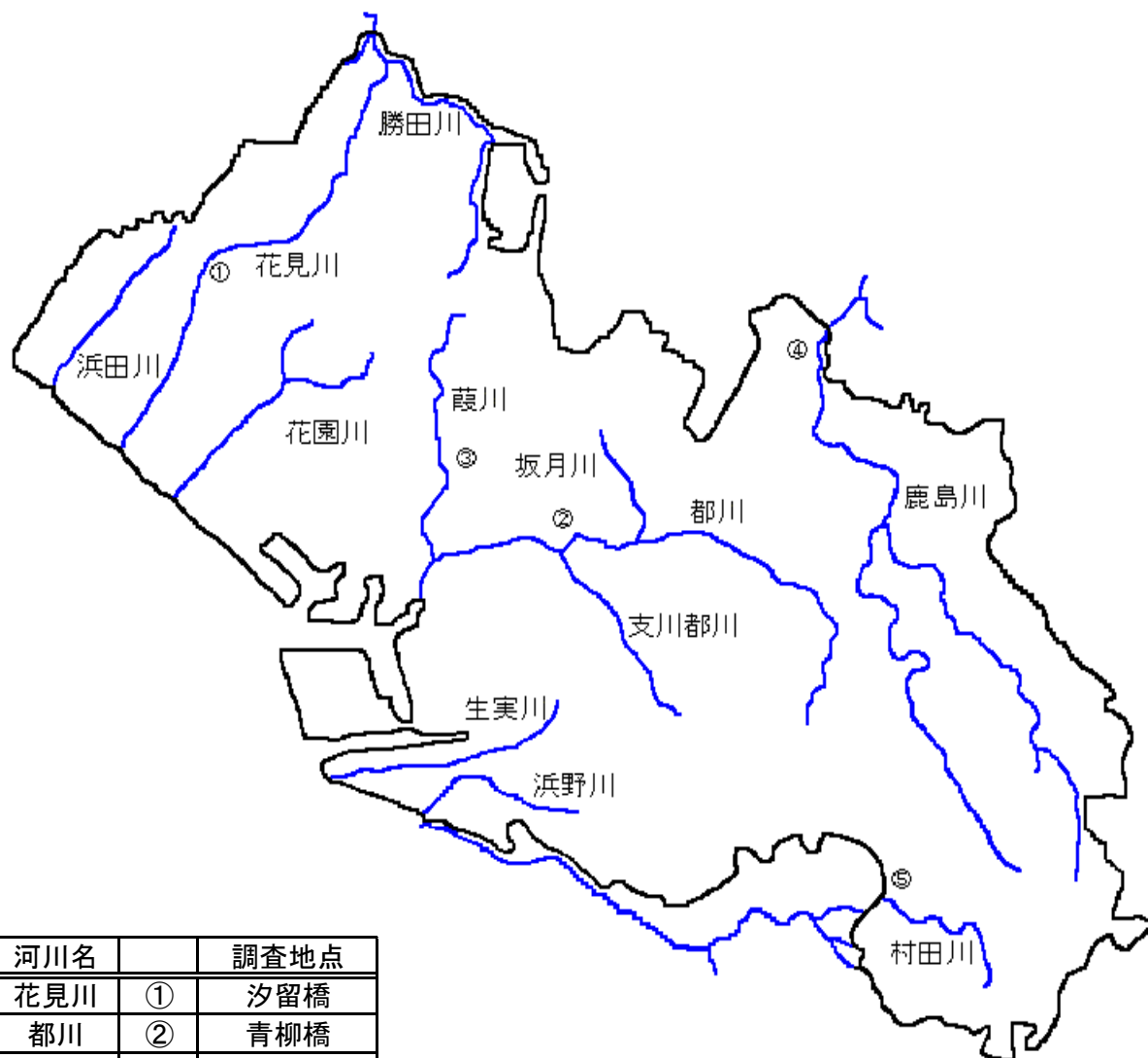
5 調査結果の評価

(1) ノニルフェノールは全地点で環境基準 (0.002mg/L) 及び水生生物に対する予測無影響濃度 ($0.21 \mu\text{g/L}$) を下回っていた。また、4-*t*-オクチルフェノール、ビスフェノールAについても、全地点で水生生物に対する予測無影響濃度(それぞれ、 $0.48 \mu\text{g/L}$ 、 $11 \mu\text{g/L}$) を下回っていた。

(2) PCB 等の上記以外の項目については、本市がこれまで実施した過去の調査結果の範囲内であった。

※過去の調査結果ではノニルフェノールを除き、すべて環境基準値等を下回っている。

一般環境中(水質)の内分泌かく乱化学物質等調査地点



河川名		調査地点
花見川	①	汐留橋
都川	②	青柳橋
葭川	③	都賀川橋梁
鹿島川	④	下泉橋
村田川	⑤	高本谷橋

下水道終末処理場の内分泌かく乱化学物質調査結果

建設局下水道管理部中央浄化センター
南部浄化センター
電話 241-8541
265-1357

1 目的

下水道終末処理場の処理水等における内分泌かく乱化学物質の存在状況を把握するとともに、今後の基礎資料を得ること目的に調査を実施した。

2 調査日

平成25年8月21日（中央浄化センター実施日）

平成25年8月7日（南部浄化センター実施日）

3 調査方法

下水試験方法（追補暫定版）2002年版及び下水道における内分泌攪乱化学物質調査マニュアル(案)-2001-に基づき、調査を実施した。

4 調査結果

単位： $\mu\text{g/L}$

項 目	中央浄化センター		南部浄化センター		
	流入水	放流水	流入水	放流水 A系列	放流水 BC系列
ノニルフェノール	0.6	<0.3	0.4	<0.3	<0.3
4-t-オクチルフェノール	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
4-n-オクチルフェノール	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
ノニルフェノールエトキシレート(n=1~4)	2.8	<0.6	11	<0.6	<0.6
ノニルフェノールエトキシレート(n \geq 5)	<0.6	<0.6	1.7	<0.6	<0.6
ノニルフェノキシ酢酸類 (NP1EC)	<2	<2	<1.5	<1.5	<1.5
ノニルフェノキシ酢酸類 (NP2EC)	<2	<2	<1.5	<1.5	<1.5
ノニルフェノキシ酢酸類 (NP3EC)	<2	<2	<1.5	<1.5	<1.5

5 調査結果の評価

(1) 放流水については、8項目のいずれも検出されなかった。